

品種 食味に優れ、草丈が低く栽培しやすい半もち・短稈の早・中・晩生ヒエ「ヒエ岩手1号」「ヒエ岩手2号」「ヒエ岩手3号」

【1 成果の概要】

粘りが強く冷めても硬くなりにくい半もち性デンプンをもつ「もじゃっぺ」を改良して、食味に優れ、草丈が低くて栽培しやすいヒエ3品種（早・中・晩生）を開発しました。

【2 特性】

品種名	特性の概要		適応地帯と関連特性
	熟期	主な特長	
ヒエ岩手1号	早生 (9月上旬)*	<ul style="list-style-type: none"> ・「もじゃっぺ」並みの収量性 ・「もじゃっぺ」より芒が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主に県北部の畑作栽培用
ヒエ岩手2号	中生 (9月中旬)*	<ul style="list-style-type: none"> ・機械移植、水稲用コンバインによる収穫が可能 ・葉はよく立ち、機械除草による損傷が少ない。 ・穂は短い、穂数が多い ・「もじゃっぺ」並みの収量性 ・芒は無く、収穫・調整・播種作業が容易 	<ul style="list-style-type: none"> ・全県下の水田移植栽培用 ・県中・南部では、高温年に稈長が伸び過ぎて水稲用コンバインの刈取り限界を超える可能性がある。
ヒエ岩手3号	晩生 (10月上旬)*	<ul style="list-style-type: none"> ・機械移植、水稲用コンバインによる収穫が可能 ・葉はよく立ち、機械除草による損傷が少ない。 ・茎は「もじゃっぺ」よりも太くて硬い。 ・「もじゃっぺ」よりも短い芒が稀に出る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・県中・南部の水田移植栽培用 ・県中・南部では、高温年に稈長が伸び過ぎて水稲用コンバインの刈取り限界を超える可能性がある。

* 熟期は県北農業研究所（軽米）でのデータ



写真1 ヒエ新品種の草姿
左からもじゃっぺ、
1号、2号、3号、達磨



写真2 「ヒエ岩手2号」
の機械移植状況



写真3 水稲用コンバインによる「ヒエ岩手3号」
の収穫

【3 留意事項】

草丈が伸びすぎないように、当面は窒素分量で4kg/10aを施肥量の上限として下さい。機械移植の精度を高めるため、育苗時に「ヒエ岩手2号」では中茎の伸長抑制を、「ヒエ岩手3号」では出芽率の向上を図る必要があります。これらの改善対策について、現在検討中です。

担当研究室 県北農業研究所 作物研究室

〒028-6222 九戸郡軽米町大字山内23-9-1

TEL. 0195-47-1074 FAX. 0195-49-3011